

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491900062	事業の開始年月日	H21年10月1日	
		指定年月日	H21年10月1日	
法人名	株式会社 ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター衣笠			
所在地	(〒 238-0032) 神奈川県横須賀市平作5-10-7			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月10日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中 お客様の機能訓練・趣味・趣向に合わせた活動等を行い年に1度ニチイ祭りを開催し地域の方々により身近に感じて頂ける様な近隣住民との交流を大切にされた地域密着を第一に考えている

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年12月5日	評価機関 評価決定日	平成26年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所はJR横須賀線衣笠駅より、しょうぶ園行き循環バス(京急バス)で「第一平作町内会館」バス停で下車し、徒歩3分の閑静な住宅地にある。
ホームの運営理念である「高齢者の尊厳保持」を大切にし、利用者(お客様)の立場に立ち職員が寄り添って、楽しく安心した暮らしをサポートしている。建物の中心には居間・食堂と小上がりの畳み部屋、オープンキッチンが配置され、陽当たりが良く清潔である。壁面には毎月の行事に合わせ、利用者で職員で作成した季節感のある作品などが飾られ、憩いの空間がつけられている。
【医療・健康管理、ターミナルケア、防災体制】
協力医の訪問診療(内科医と、歯科医)がある。また、ナースステーションの看護師が毎週訪れ、健康診断が行われている。利用者が重度化した場合は、利用者・家族と主治医、事業所で話し合い、希望があれば家族の協力を得て意向に沿った看取り支援が行われている。消火・避難訓練を年に2回実施している。非常用食料・飲料水の備蓄、カセットコンロなどの防災用品の備えがある。
【地域との交流と利用者の暮らしづくり】
町内会の夏祭りに参加したり、ニチイ祭りには地域住民を招き模擬店やボランティアによるジャズ演奏を楽しみ、介護相談会を実施している。季節ごとの年間行事のほか、地域のボランティアが月に1回訪れ、折り紙、ヨガ、歌唱などを楽しんでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	(株)ニチイ学館 ニチイケアセンター衣笠
ユニット名	ラン・カトレア

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是・経営理念を把握しニチイ学館の一員として自覚をもつと同時に業務内容を理解し業務の遂行が行えるようにしている	事業継承時に全職員で話し合い、独自の理念「高齢者の尊厳保持」を作成した。朝礼時に「社提」と「理念」を唱和し、法人の「コンプライアンスカード」を携帯し理念を意識付けしている。理念を活かし、利用者（お客様）の立場に立ち職員が寄り添って、楽しく安心した暮らしをサポートしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事等に参加し年に1度ニチイ祭りを開催しより身近に感じて頂き信頼関係を深めている	平作5丁目町内会に加入し、回覧板が回ってくる。夏祭りや防災訓練に参加している。ニチイ祭りには地域住民を招き模擬店やボランティアによるジャズ演奏を楽しみ、ホームの見学会、福祉用具試用、介護相談会を実施している。日常的にも介護相談を受けている。折り紙、ヨガ、歌唱などの地域のボランティアが月に1回訪れている。	地域との交流を活性化するためにも、幼稚園児、小・中学校の学童などとの交流を進めることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所のなじみのお店で理解協力を得て支払い時利用者に支援している		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し取り組み・状況報告を行い助言を求めサービスにいかしている	2ヵ月に1回開催し、町内会長、民生委員、市監査指導課職員（年1回出席）、ホームのオーナー、家族、事業所の出席がある。今後は地域包括支援センターの出席を働きかける。会議では行事予定、家族会の近況、通所介護事業の開始状況などを報告している。また、嚥下予防のセミナー、6月と10月には会議に合わせて防災訓練を実施している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の指導監査課に相談・報告等をしていて運営推進会議の参加頂き助言等頂いている	横須賀市指導監査課には入居状況、運営推進会議報告、事故報告を行い、連携を図っている。市の集団講習会ではサービスの指導方針や感染症予防講習を受講している。ニチイケアセンター横須賀佐原や近隣のグループホームと情報交換を行っている。消防訓練では消防署職員の指導を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関・ユニットの施錠しているが日中はまったく施錠していない	身体拘束を行わないことを「運営規定」に明記している。法人のマニュアルにより毎年内部研修を行い、言葉かけなどを注意している。日中は玄関、居室ともに施錠はしない。また、玄関、トイレ、浴室、脱衣室を見守るため、センサーボックスのチャイムで確認している。利用者の不意の外出には近隣住民の声掛けの協力がある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力も虐待に繋がる事を職員に周知している		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	言葉の暴力も虐待に繋がる事を職員に周知している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にわかりづらい文章時には補足している		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ニチイ学館の顧客満足度調査を行い本社より報告 改善命令あり家族会を開き報告・実行している	法人が「顧客満足度調査」を毎年実施している。今年度の調査ではバス旅行の要望があり、家族の協力を得ながら実施する予定で現在検討中である。利用者・家族の要望は日常的に聴取し、ミーティングで検討し、反映するようにしている。運営推進会議での発言機会のほか、クリスマス会、端午の節句に合わせ「家族会」を開催し、意見を運営に反映させている。	相談・要望については、その対応経過を記録に残す仕組みをつくることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを開催意見交換している	管理者が積極的に職員に声掛けをし、個々の意見を聞いている。月1回の全体ミーティング、3か月ごとのフロアミーティングで意見交換を行っている。職員との話し合いでは、業務だけに集中するのではなく、利用者とのふれあいの時間を増やす努力をしている。法人のキャリアアップ制度で、職員の「介護スキルの達成状況」を確認し、面接で要望を聞き、「キャリアアップ試験」で待遇改善が図られている。	従前に行われていた定期的な内部研修を再開することを期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年春に各自の本年度の目標の提出・キャリアアップ試験を受け時給アップ制度あり		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市の研修に参加しホーム内研修として活用している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎年小規模事業所連携事業の一般研修等に参加		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日傾聴に心がけ安心・安全なホーム作りを心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約・面会・電話等にて相談を受け対応している		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人が強く求めているニーズからプランに載せている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅にいた時と同じ様な生活		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスに参加できないご家族様には来訪時に相談している		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙・電話等時に御本人との交流を心がけ来訪時には居室にご案内し他者に気をつかわせない様配慮している	馴染みの人や親しい知人との関係は初回アセスメントで聞き取っている。親しい人や家族が来訪した場合は、居室でくつろいでいただけるように配慮している。町内会祭りの参加支援、ユニット合同行事の企画、茶話会には地域の人を招き交流する機会を作っている。家族の来訪は多く、家族と墓参りに出かける人もいる。	年賀状や季節の便りの支援を通じ、馴染みの人との関係継続が図られることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自己決定を尊重している1・2Fの合同の機会を設け孤立しているお客様には職員が仲間作りのお手伝いをしている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にいつでもご相談に応じますとお声がけをしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中でその方の気持ちを汲み取りカンファレンスに活かしている	利用者・家族の意向把握は、利用開始時にセンター方式でアセスメントを行っている。意志の疎通が困難な場合は、買い物や入浴時の会話で個別の要望を聞いている。ケアマネジャーが半年ごとに意向の変化を確認し、職員間で共有に努めている。家族には生活の様子の写真、健康状態などの支援経過記録、行事などの「便り」を月に1回送付している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式にその都度色別にて記入し把握している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に残し支援・特記等記入し把握している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	職員・CM・管理者と定期的にモニタリングを行い計画書に反映している	利用者・家族の意向を聞いて介護計画を作成している。6か月ごとにサービス担当者会議（一部家族の参加あり）を開き、全職員から意見を聴いてモニタリング、評価を行い見直しを行っている。主治医の意見、協力医の診察記録、看護記録を介護計画に反映している。心身の状態に変化があれば随時見直している。	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	書式に残し個人ファイルにはさみいつでも職員が見れる状態になっている		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	医療従事者等に助言を頂き柔軟に対応している		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	自分の事は自分で 時にはお互い支えながら助け合い 安全・安心なホーム生活を楽しんでいる		
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	定期的な往診 主治医より助言等ある時は病院・ご家族様・管理者と話し合いの場を設けている	利用者の全員が事業所の協力医療機関を受診している。内科医は月に2回、歯科医（2医院）は毎週1回の訪問診療がある。ナースステーションの看護師が毎週1回訪れ、健康診断が行われている。往診記録、看護記録で職員間の情報共有を行っている。インフルエンザの予防接種は年に1回受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週1回訪問看護師が来所し報・連・相を行い情報共有し助言・アドバイスをもらっている		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院先の主治医・ご家族様との話し合いの場を設けている		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	契約時に署名・捺印をもらっている。主治医・ご家族様との協力のもとターミナルケア・グリーフケアを実施している	法人共通の「重度化した場合における対応に係る指針」を契約時に説明し、「同意書」を受け取っている。重度化した場合は、利用者・家族と主治医、事業所で話し合い、家族の協力を得て意向に沿った看取り支援が行われている。ターミナルケア、グリーフケアの内部研修が行われている。この2年間で3名の看取りを行った。入院支援をした人は数名である。	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	救命救急講習会を受けるよう周知し急変時の対応は職員が理解している		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	年2回防災訓練を実施している 日常食・飲料水は3日分確保できている	消火・避難訓練（夜間想定）を年に2回、運営推進会議の開催に合わせて実施している。内1回は消防署の立ち会いがある。火災の自動通報装置、スプリンクラーが配備されている。非常用食料・飲料水の備蓄、カセットコンロなどの防災用品の備えがあり、在庫管理もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報保護法のテストを毎年行っている。又管理者より穏やかで優しい声がけを忘れずにと指導あり	事業所の理念である「高齢者の尊厳保持」を大切にし、常に尊敬の心を持った言葉かけや対応を、職員間で注意しあっている。個人情報保護方針がスタッフルームに掲示されている。理解度テストを研修後に行い、合格点が得られるように繰り返している。個人情報に係る重要書類は、スタッフルームのキャビネットに施錠保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる雰囲気作りに努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リスクを伴わなければお客様のペースで日々行っている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選び時 一緒に選び 整容時の声がけも忘れない		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食・おやつ時の献立決め・買い物支度等をきゅ共有して 昼食時一緒に摂取している	利用者の希望を献立に活かしている。職員が食材の買い出しに行き、利用者と一緒に調理している。下膳や食器洗いなど、できることを支援している。ミキサー食や行事食の提供があり、誕生日には寿司の出前をとることもある。職員は介助をしながら一緒に食事をしていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一目でみてわかるよう1枚の用紙に水分量・食事を記入		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後 口腔ケア実施 定期的に歯科往診医が口腔内のチェックしてくれている（無料）		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し自立の方でも長時間 排泄していない方には声がけしている。失禁等の軽減・パット使用の削減に心がけている	排泄は自立の人が2名で、他の人はハビリパンツなどを使用している。利用者ごとの排泄パターンをもとに声掛けし、トイレに誘導し自立支援が行われている。トイレの扉には大きな表示があり分かりやすい。各ユニットには車椅子対応トイレが3ヵ所あり、手すりが設置されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・運動・食事内容に工夫 便秘症の相談を主治医に相談 処方してもらい排便コントロールしている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望者には毎日施行（現在 毎日希望者なし）入浴だけではなく足浴実施	原則として週に3回入浴を支援している。希望があれば随時対応し足浴も行っている。入浴後は飲料水を補給している。入浴をしたがらない人や同性介助の希望者はいない。季節感を大切にし、菖蒲湯やゆず湯は利用者の楽しみになっている。脱衣室にはエアコン、扇風機を備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人にお任せしている（リスクのない方）		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員2人でダブルチェック対応 お薬説明書の注意事項を各自把握している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランに載せて職員の声かけで行っている		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段のお散歩は行っている	天気の良い日には職員が付き添い、車いすの人と一緒に散歩や買い物に出かけている。町内会の夏祭り・盆踊りには出かけている。テラスでは、洗濯物干しや外気浴が楽しめる。	利用者の要望を反映するため、家族の協力も得て、バス旅行や季節の花見などの外出を実現することを期待します。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	消耗品等ご家族様がほぼ揃えてくれる 本人の訴え時には預かっているおこずかい金で購入している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に数回 ご家族の面会あるので電話・お手紙の要望は今のところない		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	白で統一され落ち着ける空間になっている。毎月季節感を室内でもあじわえるよう飾りつけを工夫している	共用空間の中心には、居間・食堂と小上がりの畳み部屋（6畳）およびオープンキッチンが配置され、陽当たりが良く清潔である。間取りは職員が見守りやすいように工夫されている。居間の一部には床暖房があり、洗面台、うがい薬、ペーパータオルが置かれている。ハウスクリーニングを半年に1回外部に委託している。壁面には毎月の行事に合わせ、利用者と職員で作成した季節感のある作品（クリスマス、折鶴、切り絵、習字）などが飾られ、憩いの空間がつけられている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールない座席位置が決まっているわけではないのでその日のその方の気分で個々に座りたい所に座っているし和室も使用している		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には御本人にお任せしているので個々になじみのものを持参している	居室にはエアコン、照明器具、防災カーテン、クローゼット、スライドハンガーが備え付けられている。利用者は馴染みのベッド、整理たんす、テレビ、人形、写真、仏壇などを持ち込み、居心地よく過ごせる部屋作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	4Sを心がけ安全な毎日を過ごせるようにしている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイ学館 ニチイケアセンター 夜望

作成日 平成 26年 3月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の幼・小・中学校の児童の交流がない	地域の幼・小・中学校等との交流する	地域の学校等に出向き福祉体験等を授業の一環としてさせてもらえるか聞き 幼稚園児には、ホームのイベント等に招きふれあいの場をもうけ それをきっかけに交流の場を増やしていく	1年
2	20	馴染みの人（お友達）の関係継続がとぎれている	馴染みの人との関係継続	年賀状・暑中お見舞い等のはがきを職員と共有作成しだす	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。